

# 平成29年度 事業報告

社会福祉法人 福岡育児院

## 1. 児童の処遇状況

### (1) 事業実績(平成29年度)

【定員77名(うち 地域小規模施設 12名)】

入所定員	77名	延人員	924名
平均入所数	55名	延入所数	665名
入所率	71%		

### § 平成29年度 入所児童の年齢別調

	H28.4.1			H29.4.1		
	男	女	計	男	女	計
幼児	3	5	8	1	8	9
小学生	10	12	22	10	11	21
中学生	8	6	14	10	5	15
高校生	7	9	16	7	7	14
合計	28	32	60	28	31	59

### § 平成29年度 入所状況

	平成28年度			平成29年度			
	男	女	計	男	女	計	増減
幼児	2	6	8	2	1	3	-5
小学生	1	2	3	1	4	5	+2
中学生	4	4	8	1	3	4	-4
高校生	1	0	1	0	1	1	±0
合計	8	12	20	4	9	13	-7

### § 入所児(理由別)

H30.3.31 現在

措置理由	
父母の死亡	0
父母の行方不明	0
父母の不和	0
父母の拘禁	0
父母の入院	2
父母の就労	6
父母の性格異常・精神障害	4
父母の虐待(放任)	18
(身体的)	6
(心理的)	0
(性的)	0
養育拒否	0
破産等の経済的理由	7
不登校	0
その他	20
合計	63

\*措置理由の内訳については、児童票の養護内容欄に記載されている分の集計です。

§ 入退所状況(平成30年3月31日)

(単位は%:名)

月区分	4月初	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末
幼児	9	9	10	10	11	11	11	11	11	11	12	12	12
小学校	21	21	21	21	22	22	23	23	24	24	24	24	22
中学校	15	13	13	13	13	14	14	14	16	17	17	17	18
高校生	14	13	13	13	12	11	11	11	10	10	10	10	8
その他	0	1	1	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0
合計	59	57	58	58	59	60	61	60	61	62	63	63	60
入所率	76%	74%	75%	75%	76%	77%	79%	77%	79%	80%	81%	81%	77%
入所合計	13名	0	1	0	3	2	2	0	3	1	1	0	0
退所合計	16名		2	0	0	2	1	2	0	2	0	0	7

§ 退所人員(理由別)調(平成30年3月31日)

		父のみ	母のみ	両親	その他	計
退所	家庭引取り		9	1		10
	他施設へ		1			1
	進学(大学・短大・専門学校)					
	就職		1		1	2
	その他(行方不明)		2	1		3
合計			13	2	1	16

§ ショートステイ及び一時保護児童の状況(平成30年3月31日)

	平成28年度				平成29年度			
	ショートステイ		一時保護児童		ショートステイ		一時保護児童	
	人数	在籍日数	人数	在籍日数	人数	在籍日数	人数	在籍日数
4月	8	24	2	42	10	42	0	0
5月	4	13	3	24	11	62	2	10
6月	1	2	2	60	6	22	6	87
7月	7	22	2	62	8	36	4	24
8月	2	4	2	62	10	38	1	19
9月	4	11	2	60	14	55	0	0
10月	4	15	2	62	18	80	0	0
11月	3	14	3	74	12	50	0	0
12月	3	10	3	68	6	30	2	44
1月	5	6	2	60	11	61	2	62
2月	3	11	0	0	6	36	2	56
3月	0	0	0	0	6	25	2	50
計	44	132	23	574	118	537	21	352

## (2) 帰省状況(平成29年度)

イ. 夏休み (8月12日～15日を中心に10日以内)

8月13日在籍数	59名
○お盆里親	2名(3%)
○帰省児童	20名(34%)
○居残児童	37名(63%)

ロ. 正月 (12月30日～1月3日を中心に10日以内)

12月30日在籍数	62名
○里親	2名(3%)
○帰省児童	30名(48.5%)
○居残児童	30名(48.5%)

## (3) 入所児童の進路・進学状況(平成29年度)

① 高等学校卒業 (男子1名・女子1名)

就職	株式会社スバル	男子1名
〃	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	女子1名

② 中学校卒業 (男子3名・女子5名)

○箱崎清松中学校卒業	(男子2名・女子2名)
○百道中学校卒業	(女子2名)
○多々良中学校卒業	(男子1名) *地域小規模
○多々良中央中学校卒業	(女子1名) *地域小規模

*進学先	福岡魁誠高等学校	(1名)
	水産高等学校	(1名)
	沖学園高等学校	(1名)
	博多高等学校	(1名)
	精華女子高等学校	(1名)
	博多女子高等学校	(2名)
	有朋高等専修学校	(1名)

③ 博多幼稚園卒園 (女子2名)

## (4) 年間行事

次頁「平成29年度年間行事」のとおり実施。

## (5) 入所児童の活動状況について

子ども達は、スポーツ面や文化面において意欲的に取り組んでおり、数多くの成果を挙げています。

・福岡市児童福祉施設球技大会	野球の部	優勝
・福岡県児童福祉施設球技大会	野球の部	出場
・福岡市児童福祉施設球技大会	バレーボールの部	準優勝
・児童文化奨励絵画展	高校生の部	入賞1名
	幼児の部	入賞1名
・全国児童画コンクール	幼児の部	優秀賞1名
・福岡県遊技業協会こども絵画コンクール		審査員特別賞2名

## 平成29年度行事報告

月	行事内容	月	行事内容
4月	部屋移動 入園式 入学式 中学校との交流会	10月	那の津ライオンズクラブとの交流会 市乳養協バスハイク 秋季児童福祉施設バレーボール大会 幼児芋ほり招待
5月	小学校との交流会 全日本司厨士協会との交流会 担当者会議 野球招待	11月	福岡西ロータリークラブとの交流会 博多食文化の会招待
6月	福岡市児童福祉施設球技大会 支援調整会議 野球招待	12月	支援調整会議 院内クリスマス会 院内もちつき 大掃除
7月	福岡県児童福祉施設球技大会	1月	第三者評価受審 担当者会議 つばさ合唱団日帰り合宿
8月	児童面接 野球招待	2月	私立高校前期入試・合格発表 つばさ合唱団演奏会
9月	西鉄招待 つばさ合唱団日帰り合宿 秋季児童福祉施設野球大会 野球招待	3月	公立高校入試・合格発表 卒園式 卒業式 市乳養協高校3年生研修会 卒院・進級祝い会 院内バスハイク

## 2. 職員の処遇状況

### 職員配置実績

区 分	29年度 配置数 H29.4.1	28年度 配置数 H28.4.1	増 減	備 考
施 設 長	1	1		
次長	1	0	+1	
主任指導員	1	1		
主任保育士	0	1	-1	
家庭支援専門相談員	1	2	-1	
女 子 部	6	6		
男 子 部	7	8	-1	
幼 児 部	5	9(4)	-4	
一時保護・昼間保育	5(4)		+5	* 新規部署
グループホーム	1	1		* 所属：女子部
ポラリス	5(2)	5(2)		
アイリス	5(2)	3(1)	+2	
<b>処遇職員計</b>	<b>35(8)</b>	<b>35(7)</b>		
調 理 部	7(1)	6(1)	+1	
心理療法士	3(2)	3(2)		
事 務 部	2(1)	2(1)		
嘱 託 医	1(1)	1(1)		入江小児科医院長
合 計	50(14)	48(12)	+2	

〔備考〕 1. 計画数の（ ）内は非常勤で、内数です。

## 3. 施設の運営状況

前年度に引き続き、平成29年度も、福岡育児院の家庭的養護推進計画に基づき、さらに本体施設の小規模化、ケア単位の個別化、地域分散化を計画的に進めていく。

児童の処遇面については、処遇困難な高年齢時（中高生）の入所や、短期での入所の受け入れが昨年に引き続きとても多かったことで、全体的に落ち着きがなかった。

職員体制においては、発達障害を抱えている児童、虐待を受けた児童等、専門的なケアを必要とする児童に対して、適切な関わりが出来るスキルを身に着けるための研修の充実と、職員にとって安心・安全な職場作り（長時間労働をしない。良好な人間関係の構築。）についての取り組みを早急に行わなければならないことを痛感した。

### (1) こどもの権利擁護と自立支援

#### 『養育理念』

こどもたちが「福岡育児院で育てられて良かった」と思える施設づくり

- 一、入所児童の権利擁護を基本理念として、こどもを中心に据えた養育の充実と治療的なケアも含め、ひとりのこどもに全職員で向き合い、社会的自立にいたるまでの援助・支援を行う。

- 一、基本的な生活習慣や節度ある態度の涵養と、自らを認める自尊感情や物事への感謝等人間関係の基礎を培う。
- 一、学習に励み、勤労を学び、困難にくじけない忍耐力とお互いに協力する精神を育てる。
- 一、創意工夫する態度を身につけ、自主的に又、合理的に物事を判断する力を養う。
- 一、身の回りの清潔に対する関心を高め、健康に留意する等の衛生観念を養うとともに、美しいものを愛し、豊かな心を育てる。

## (2) 良質な職員の確保と育成

こどもの養育に情熱と愛情を持てる職員を確保・育成するため、次のような事を行った。

- (ア) こどものより良い支援を行うには、職員の資質、支援技術等の向上を図る必要があるため、職員研修には積極的に取り組んだ。施設内における職員研修(西南大学・野口氏によるスーパーバイズ等)は毎月行い、福岡市乳児院児童養護施設協議会や福岡県・九州・西日本・全国の養護施設協議会等が主催する職員研修に多数の参加をさせた。
- (イ) 職員のストレスケアと自己研鑽のために、(株)ホームサポート・産業カウンセラー城間氏による職員全員への個人面接(カウンセリング)を複数回実施した。
- (ウ) 良質な職員を確保するため、福岡県社会福祉協議会の人材センターやハローワーク等を通じた公募による職員採用を行った。

## (3) 居住環境や職員の執務環境を保持・増進

こどもたちのより良い居住環境や職員の執務環境を保持・増進するために、主に次のことを行った。

- (ア) 設備の点検と修繕(施設内建具等修理、空調室内機・室外機修理、グラウンド・遊具整備、他)
- (イ) 物品購入(児童自転車、幼児室ソファ、バッテリーゲージ、他)

## (4) 施設運営の透明化の推進

(ア) 広報誌の発行

福岡育児院の広報誌「ふれあい」第12号を7月に発行し、保護者、地域の方、関係機関等に配布した。

(イ) ホームページの充実

施設の運営・経営をより透明化するため、財務諸表を公開し、苦情解決委員会の第三者委員の氏名・電話番号・住所をホームページに公表している。

また、こどもたちのスポーツ活動等の生活状況も掲載し、入所児童に対する理解をいただけるように努めている。

地域との連携を深めていくためにも、まずは福岡育児院の状況をお知らせすることによって、福岡育児院を身近に感じていただくように努めている。今後も、最新の情報提供を迅速に行うようになお一層の推進を図る。